

コード No. 18783

**Anti-Human  
IRF-3 (S386 Phosphorylated) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

- 
- はじめに : IRF-3 は IRF (Interferon regulatory factor)ファミリーに属する転写因子であり、N 末側に保存された DNA 結合ドメインを有しています。ほとんどの細胞に発現しており、通常は細胞質に存在していますが、ウイルス感染に伴ってリン酸化を受け、転写のコアクチベーターである CBP/p300 と結合して核に移行し、IFN-β 遺伝子の活性化因子として働くことが報告されています。ウイルス感染によるリン酸化は IRF-3 kinase (IKK-i/ε, TBK-1)によって、386 番目のセリン残基に起こり、2 量体化を誘導することが報告されています。
- 免疫抗原 : IRF-3 のリン酸化 C 端部分合成ペプチド (RVGGAS(pS)LEN)
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : ウェスタンブロッティング 約 2 µg/mL にて使用可能  
本抗体は、通常の SDS-PAGE でのウェスタンではうまくリン酸化 IRF-3 分子を検出することができません。Native PAGE でのウェスタンをおすすめします。
- 参考文献 : 1. Mori M, Yoneyama M, Ito T, Takahashi K, Inagaki F, Fujita T. Identification of Ser-386 of interferon regulatory factor 3 as critical target for inducible phosphorylation that determines activation. J Biol Chem. 2004 Mar 12;279(11):9698-702.